

## 論文番号 2

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Japanese Alcoholic Beverage and All Cause Mortality in Japanese Adult Men

日本人成人男性におけるアルコール飲酒量と死亡率の関係

執筆者

Miyazaki M, Une H

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Journal of Epidemiology 2001 Sep; 11(5): 219-23

キーワード

アルコール摂取、死亡率

要旨

この論文の目的は、日本人成人男性におけるアルコール摂取量と死亡率との関係を見ることと、摂取しているアルコールの種類と死亡率の関係を見ることである。

研究は福岡県の2つの農村地区と1つの都市でコホート研究として行われた。1988年から1990年にかけて郵便による調査が行われ、2つの町については1995年まで、またもう一つの町については1999年まで追跡調査が行われた。40から69歳の日本人男性6,652人がアルコール摂取や喫煙習慣に関する質問を含む調査票に返答した。データはCoxの比例ハザードモデルで分析された。全死因死亡率とアルコール摂取量との関係では、機会飲酒者と25グラム/日未満のアルコール飲酒者で統計学的に有意関係が認められた(ハザード比=0.71, 95%信頼区間: 0.50-0.99; ハザード比=0.51, 95%信頼区間: 0.29-0.88)。20-50g/日、及び50g/日以上アルコール飲酒者については、全死因に対する死亡率に関して有意な関係が認められなかった。アルコール飲料の種類と全死因死亡率との関係を毎日飲酒する者と非飲酒者で比較すると、どの種類の飲料でも非飲酒者に比べて毎日飲酒する者の方が、死亡率は低かった。特に、非飲酒者に比べて日本酒飲酒者では死亡率との間に統計学的に有意な負の関係が認められた(ハザード比=0.45, 95%信頼区間: 0.30-0.68)。アルコール摂取(特に日本酒)は全死因死亡率に対するハザード比を減少させる関係があるようである。